

わたしと笠間 2

結婚、そして笠間に通う…芸術の村構想

私が長谷川徳七と結婚したのは昭和三十九年のことだった。

翌年、舅の長谷川仁が笠間市

から名誉市民の称号をいただいた。当時の市長長谷川好三さんが美術愛好家であられたから、画商一筋で来た自分を推薦してくれたのだらうと舅は述懐している。そのことがきっかけで舅は何か芸術に関することで故郷笠間の役に立ちたいと模索し始めた。

二か月ほどして、画家の朝井閑右衛門や小説家の田村泰次郎を笠間に案内したところ、このような美しい自然があるところに、アトリエを建てて住みたいと言う話が始まった。そこで、芸術村構想が生まれた。この年、昭和四十年八月には画家林武ら60名の美術家たちがバス二台で笠間の現地視察に

来られ、ほどなく、画家、陶芸家、彫刻家、染色家が住む芸術村が発足することになった。

舅と同居しており、笠間行きには私たち夫婦は生れたての長女と毎週同道した。当時の水戸街道は常に渋滞しており、三時間から、ともすると四時間かかる時もあった。

そうして、舅に同道したことから、私は図らずも笠間に馴染むことができ、芸術村に生まれる陶芸家を通して笠間の陶芸にも親しみを感じるようになった。



木下孝則「花嫁像」1964年
笠間日動美術館蔵

笠間日動美術館

副館長

長谷川智恵子

県農産加工品コンクールで最優秀賞を受賞

栗とジャージーミルクのじゃむ

楽農工房は13年前、笠間クラインガルテン（本戸）の開設時に併設された農産加工所で、地元のお母さん5人が運営しています。笠間産の旬の果物を使って一つ一つ丁寧に、やさしい味のじゃむを作っています。

これまでも同コンクールでは、ブルーベリーのジャムで最優秀賞を、桃とヤコン、梅のジャムで入賞を果たすなど、栄えある賞を受賞してきました。今回は、「栗とジャージーミルクのじゃむ」で、9年ぶり、二度目の最優秀賞に輝きました。

この商品は笠間の特産品である栗をたっぷり使っており、ミルクと合わせることでクリーミーな味わいに仕上がっています。その完成度の高さが受賞につながりました。



1 焦げないように、混ぜ続けるのが一苦労。
2 一つ一つ、丁寧に瓶詰め。

代表 鈴木かつ子さん（本戸在住）

Interview

みんなの声があるからがんばれる

最優秀賞をいただくことができたのは、生産者の皆さんや市・普及センターなど、たくさんの方に協力していただき、この活動を長く続けられたからです。リピーターが増え、「今年はいつできあがりますか？」というお客さんの声をもらうことが、私たちのやりがいです。

これからも、私たちの商品を待っていてくれる人のために、工房のみんなと楽しく元気がいっぱいしたいと思います。



楽農工房 らくのうこうぼう

〒309-1633 笠間市本戸4258（笠間クラインガルテン内）
TEL 0296-74-3546 FAX 0296-74-3574



▲楽農工房の皆さん。あたたかい笑顔に、買いに来たお客さんもほっこり。



※この商品は季節限定です

【問合せ】農政課（内線540）